

# 第5回いわき市震災メモリアル検討会議 議事録

No. 5

<b>会議名</b>	第5回いわき市震災メモリアル検討会議		
<b>開催日時</b>	2015.10.19 (水) 14:00~16:00	<b>開催場所</b>	いわき市役所 第8会議室
<b>参加者</b>	<b>検討委員</b>	石丸委員長、福迫委員、高橋委員、渡邊委員、藁谷委員 木村委員、林委員、強口委員、蛭田委員、曾我委員、芳賀委員	
	<b>オブザーバー</b>	川副オブザーバー	
	<b>事務局</b>	新妻部長、赤津課長、鈴木主査ほかふるさと再生課職員	
	<b>トータルメディア</b>	丹治・中尾・宮澤	
	<b>記入者</b>	荒木	
<b>資料</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第5回検討会議次第・委員名簿・席次表</li> <li>■ (資料1) 第4回検討会議の主な意見等</li> <li>■ (資料2) 提言書(案)</li> </ul>			
<b>概要</b>			
<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 提言書(案)について</p> <p style="margin-left: 20px;">(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第4回検討会議の主な意見等について、(資料1)に基づき説明した。</li> <li>○ 提言書(案)について、(資料2)に基づき説明した。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員 A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ [P3]これまでの震災メモリアルに係る取組みについて総括するまとめの文章が不足している。いわき市は何をしなければならないのかについて詳しく明記する必要がある。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員 B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ [P3]いわき市として中核拠点施設を作り、ネットワークを構築するという動機が記載されていないため、明記する必要がある。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行政として必要となる取組みの内容を盛り込む必要がある。</li> <li>○ 各地域や団体の取組みを大いにサポートし、アーカイブが持っているデータ、記録を活用しながら地域の生きた記憶を継承していくという内容を加える必要がある。</li> <li>○ 「市外避難者」という表現については「市外からの避難者」に置き換える。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員 C)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ [P3]「震災語り部の養成と被災地スタディツアーの実施」という記載があるが、拠点施設の展開イメージやソフト展開の部分についてもっと具体的な情報が欲しい。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員 D)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ [P2]「柔軟性に富み、発展性を秘めたいわき市民の住民性やメンタリティの再発見」について、よりイメージしやすくわかりやすい表現に訂正すべきである。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市外からの避難者を大量に受け入れ、トラブルは確かにあったが、それなりに共存できているという意味合いの表現に変更してはどうか。</li> </ul>			

(委員 E)

- [P2]「類例がなく」という表現は、言い過ぎではないか。

(委員長)

- 「ともに生きて、ともに生活している」あるいは「共生している」のいずれかの表現に修正したほうがよい。
- 「類例がなく」は、規模の点で言っていることと考えられる。たしかに規模ではほかに類例がない。

(委員 B)

- [P3]田人地区では断層面の保存に取り組んでいるが、このような取組みも記載してはどうか。
- [P4]「市内各地や周辺地域における復興に向けた取組みを支援し」とあるが、メモリアル事業が復興に向けた取組みを支援すると誤解を与えてしまう。「支援」を「検証」などに修正した方がよい。

(事務局)

- 震災によって大きなダメージを受けつつも、各地域においてはさまざまな復興まちづくりの取組みが行われていることから、これをメモリアル事業全体で情報発信、あるいは中核拠点との連携を図りながら支援していくという意図で記載した。

(委員長)

- 震災メモリアル事業としての目的が押さえられていればいい。

(委員 F)

- [P2]「重要性が再認識された出来事でもあった」の「出来事」という表現が軽い印象を受ける。
- 「類例がない」という表現は、「未曾有の複合災害」「福島第一原子力発電所事故」「今なお市民生活の各般に影響を及ぼしている」という文脈から考えると適切ではないか。

(委員長)

- 「類例がない」という表現については、国際的な視点からみれば特筆すべきことであると思うが、表現については検討が必要。
- [P2]「地域共生モデルを示した」とまでは言えないので、修正が必要。
- 中核拠点施設がメモリアル施設として追悼・鎮魂機能をすべて包含するという考え方はしない方がよい。

(委員 A)

- [P6](1)中核拠点施設の位置づけの前に、中核拠点施設整備の必要性を入れた方がよい。
- 具体的には、
  - ア 震災の伝承に必要な震災遺構は、結局市内には残らなかったということ。
  - イ 原発事故を含む複合災害という点で、震災を遺構などの形では伝承しにくいいため、映像等で可視化することによって複合災害を伝承する方法がふさわしいこと。
  - ウ 市内の様々な取組み、メモリアルに向けた取組みの支援拠点としてやはり中核拠点施設が必要であること。
  - エ 一元的に情報を提示できる場所としての施設は不可欠であるということ。などである。
- 全体を通して、「原子力災害」なのか「原子力事故」なのか、言葉と認識の統一が必要である。
- 減災、防災の使い分けについても、留意する必要があるのではないか。
- [P7]情報発信に関しては、災害が現在進行形であることから、いわきの今・現在を強調した展示企画について検討することが重要であると考えられる。

(委員長)

- いわきの今を伝えるということは、いわきの姿を実感してもらえ、すなわち、それこそ現在進行形である災害の今を伝えるということにつながるため、この部分は文言の修正が必要である。
- [P9]の一覧表については、提言書に入れるべきか検討したい。施設をイメージしやすくするためには施設機能一覧という形で提示した方がわかりやすい。

(委員 H)

- 施設機能一覧、イメージ図とも、ある程度の方向性を把握するためには必要であるが、施設機能一覧の必要性までは、現段階では必要ないと思う。

(委員長)

- 施設機能一覧の機能のみを残す方法もあると思うが、いずれにしても検討が必要。
- 施設建設地に求められる条件として、ア、イ、ウの三つは重要であるが、エも含めて四つすべての条件を満たす場所を見つけることは、現実的には非常に厳しい。よって、「一定の面積」と「アクセス性」を優先した方が良いのではないか。

(委員 A)

- 「一定の面積」と「アクセス性」を最低限満たすべき条件として、可能であればウとエの条件も満たすことができる立地であればなお良いというような表現で補足すれば良いと思う。

(委員長)

- [P12]運営主体については、指定管理方式による運営は難しいのではないかと。

(委員 A)

- 運営体制図は、いわき市の関わりも含めて表すべきである。運営主体の比較一覧表は参考資料でよい。

(委員 A)

- 整備主体が不明確。いわき市が整備主体になることを改めて記載しておく必要がある。

(委員長)

- 整備主体については今のところはっきりしていないが、整備・管理運営をはじめとして、市が取り組む事業であることは明記する必要がある。
- [P14]ロードマップには、前回会議の発言を受けて時間軸が入っているが、これで大丈夫か。

(委員 D)

- [P15]組織体制の記載について、もう少し精査する必要がある。組織的にどのような人員を配置し、事業を展開していくのか、専門職(学芸員・研究員など)をどのように取り入れるのかについて明記する必要がある。

(委員 F)

- 市民参画を積極的に図っていくということであれば、人材をどのような体制で育成していくかというようなソフト面も視野に入れておくことが必要。

(委員長)

- 専門職の必要性については明記する。ただ、この提言書で専門職をどのような条件で配置するかなど、組織づくりについてまでは書けない。

(委員 D)

- 研究をしなければ展示も成り立たないので、専門職を配置するという文言だけでも入れておくと良いと思う。

(委員 A)

- [P15]第一段階では準備室のようなものを設置し、専門的な人材の育成に取り組む必要があるが、人材育成にどう取り組むのか不明確なので、その内容について新たに盛り込んで良いと思う。
- [P14]第二、第三段階にも、最新情報の収集、展示替えについて記載すること。
- 拠点施設は 2019 年までに完成できなければ、2021 年以降にずれ込むこととなる。そのため、具体的なタイムスケジュールを作って進めていかなければならない。

(委員 F)

- このような事業ではソフト面も含めて取り組まないと時間が足りずに間に合わなくなってしまうので、事業の展開に合わせて人材育成もきちんとやっていかなければならない。

(委員長)

- この段階ではふるさと再生課が担当部署ということでやっているが、実際に具体的なソフト面の事業を展開していくときには、しかるべきセクションを設けなければ進まないと思うので、その辺りは事務局でも考えているという認識でよろしいか。

(事務局)

- 組織については、市において来年大きな見直しを予定しており、担当セクションを含めて庁内で少しずつ議論を始めているという段階である。
- 予算面の対応については、新年度に必要な予算を盛り込んでいきたいと考えているが、復興交付金の中で比較的自由度の高い効果促進事業の一括配分を活用し、今から取り組めるものも補正により対応していきたい。

(委員長)

- [P17～]三つのネットワークについて少し検討したい。「集合的記憶」という社会学でも使う用語であるが、地域としての被災体験を共有化していくということが非常に重要だと思っている。記録していくという側面はアーカイブ機能であるが、この震災記録の保存の取組みを中核拠点施設が様々な形でサポートしていくことが重要であると思っている。このような内容が P19 のイメージ図では見えてこない。しかし、この取組みの流れの中で将来的なネットワークの構築が進められれば理想である。

(委員 G)

- 震災体験の共有化ということを踏まえると、P4 の基本的な考え方にある「震災記録の収集・保存・継承のためのアーカイブを構築するとともに、その情報を活かし防災・減災教育の一翼を担う。」に加え、「市民との震災体験の共有化」を入れてはどうか。

(委員長)

- [P4]震災の記録は収集・保存してだけでなく、それを使って人々の記憶をよみがえらせる、伝えていく、そして地域の共通の記憶として継承されていくという意味合いがあるので、基本的な考え方の中に「記憶の記録化」や「記録の記憶化」という言葉を使ってこの説明を入れたい。
- いわきという場所に中核拠点施設なりメモリアル施設をつくるということに意義があり、市民や地域の人々に密着したところに震災の記録を活用できる施設を整備するというニュアンスも加えていきたい。

(委員 B)

- イメージ図がいくつか出てくるが、文章と同じことが表現されているだけなので重複感がある。概要版をつくる時に使うことにして、提言書からは外してはどうか。

(委員 D)

- 震災遺産という文言がこの提言書には多用されているが、あまり一般的な表現ではないので、その定義づけも必要なのではないか。

(委員長)

- 提言書の修正作業については私と事務局に一任していただき、最終的な提言書を皆さんに確認していただく方法でまとめさせていただきたい。
- 本検討会議では中核拠点施設の整備を中心に議論を進めてきたが、震災メモリアル事業の概念はもう少し広く、様々な事業活動を推進していく中核の施設が拠点施設ということであり、拠点施設ではあくまで震災記録の収集・保存と展示・普及を柱にしていくことになるため、施設規模、立地場所について考慮してほしいと考えております。

#### 4. その他

(部長)

- 委員の皆様にご挨拶を申し上げます。

#### 5. 閉会

以上

[署名]

強口暢子

---

藁谷俊史

---